



もちつき大会

# 文化 なかの

中野市公民館報

季節のコラム

## 謹賀新年

平成が変わって、今年で二十年、昭和天皇が昭和六十四年の一月七日午前六時三十三分に崩御されて、翌日の八日午前零時から「平成」の時代がスタートした。

「平成」ということばのことは、「内平かに外成る」という中国の古典にある成句で、「平成」にこめられた意味は「国際化時代を迎えて内外ともに平和がつづくこと」を願ったものだといわれている。

日本の国際貢献のあり方についても論議されている今日この頃、新しい年の初めに、豊かな国日本と世界の平和が実現されることを願う。

2008

No.34  
(通巻No.566)

1

発行  
中野市中央公民館

編集  
文化なかの編集委員会

〒383-0025  
中野市三好町一丁目4番27号  
TEL 0269-22-2691  
FAX 0269-26-2342

今月号の  
特集

【講演】

『ともに学ぶ  
地域と学校  
をめざして』

## あおぞら

新しい年の始まりの月1月。始まりというのには気持ちのよいものだ。1年365日、いうまでもなく地球が太陽の周りを1周するのにこれだけかかる。この365日という日数は人間が日々生活するのに区切りとしてちょうど良いように思える。ずっとこのサイクルで生活しているからと言うことでは片付けられないような気がする。

もし1年が倍の730日だったとしたら、もっとだらだらして人間本来の怠け癖があらさるまに出してしまうだろうし、半分の182日だったら結果ばかり気にしてバタバタしているうちに1年が終ってしまう。年末がないということは年始もないということだ。新しい年を迎えるあのなんとも言えない爽やかな気持ちさえも味わうことができなくなる。

誰にとっても新年とは、清々しい気持ちで迎えたものであり、みんな新しい期待のような何かを心のどこかに持っているような気がする。

(H・K)

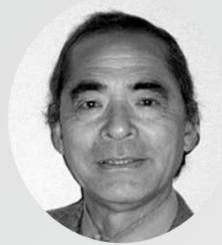
# 講演会

## なかの21市民講座

子どもたちを取り巻く状況が変化し、いじめ、不登校など教育や子どもたちをめぐる報道もされています。地域全体で子どもの教育を支援する可能性があるのか、地域で子育てをすることの意味を考えてみよう、講演とパネルディスカッションを行いました。

講演「共にくらし  
ともに学ぶ地域と  
学校をめざして」  
～学校と地域のかるやかな融合～

講師 宮崎 稔さん  
学校と地域の融合教育研究会会長



### 各地の状況

北海道の稚内に近い枝幸(えさし)町へ行きましたが、ここも過疎が進みつつある。過疎化の町では、「過疎化を止めるには」と聞かれましたが、最近風潮が変わり「残っている子どもをどう育てるか」「今居る子どもにどんな寄り添い方が大事か」との話題で呼ばれることが増えています。

愛媛県の新居浜は、別子銅山の有ったまちですが、千何百人いた小学生が、今85人しかいない。その子どもにどんな教育が必要かを、町を挙げて考えようとしている。

三重県の賢島では、不登校や高校を退学した数人の子どもに、どういうことをしたらいいのか。何かの理由でドロップアウトした子をどう救うかを、町として取り組んでいる。特区により高校に特別の学科、海辺ですので、漁師学科とか海士(あま)学科、板前学科を作りました。経済的理由の子もいるので、板前の修行、店で働き給料をもらいながら、高校卒業の認定を得ることができるよう、島の人が考えたのです。

### 居心地のいい地域

本日のタイトルで、「子育て」という言葉は使わないのは、幼稚園や小学校に限定した形ではなく、「どういう地域にしたいのか」「うちの市・地域を、居心地のいいところ」とトータルで考えていく時代になると、感じているからです。

国民総生産「GNP」は、日本が世界で2番目だそうです。最近「GNH」という言葉が聞きます。「H」はHAPPINESS・幸せです。「たいした給料も貰わず、金もたいて無いが、幸せを感じる国民が多いよ」とか「幸せ感を目指す国をつくろう」という提唱です。日本は、経済が優先されていますが、「金がなくても幸せだよ」という人生が送れるまちづくりを考えていく時でないのか、そして今始まりつつあると感じています。

私が全国各地に呼ばれるのは、学校を基点として、町に

住んでいる人が、共に学び、共にいきいきと暮らせる地域を結果として作ったことにあると思います。それが読売教育賞最優秀賞になり、「子どもだけでなく、町に住む人もみんな幸せになる」とのことです、まちづくりにも声がかかっています。

### 習志野市の小学校での改革・成果

学社融合・学校開放を十年間やりましたので、成果も見えてきました。その成果を「七者のメリット」と名づけました。七つの者、それぞれの立場の人です。

私の勤務した秋津小は、埋め立て地に出来た学校ですが、この人に財産家はいない。土地はないが、学歴だけは有る若い人たちが多く、「わが子に、金や土地は残せないが、その分学歴を」とのことです、年中学校に要望ばかりされ、「わが子、わが子」という人たちでした。教育委員会に苦情の電話をするモンスターペアレントの多い地域でした。

①不登校の子どもの数は、市内でトップクラスでした。学校教育では、不登校・学校に来てくれないことは、教育ができない訳で困ることです。ところが学校開放・学校と地域の融合をす

めた2年目から、430人位の子どもの登校拒否が0になり、10年ぐらい続いています。

②中・高校生、若者の居場所作りと言われますが、中・高校生がエネルギーをどこで発散をしているのか。公園でたむろしタバコを吸う、コンビニの前でへたり込んでいます。あるいは進路で悩んでいるのかもしれない。母校も先生が転勤したりすると、行きにくいです。しかし地域の人は転勤しませんから、「俺のこと覚えてる」、「ギターやりたいけれど、あの部屋でやってもいい?」と言って、中・高校生が来て、溜まり場・居場所になっていきます。

③中・高校生の進路など的確に答えられる親は少ないと思います。地域には、誰かしら答えられる人がいます。子育ての悩みがあっても、相談相手の分からない母親が「うちの子最近、クソババアなんて言うのよ」、「言うこと聞かないで、口答えするので困る」と言うのと、「そんなの当たり前だよ。何でも言いなりの子よりもより良いよ」と先輩の方が優しくアドバイスし、若い親が、こどもを虐待しているようです。

にならないことは重要ですが、自分の町に、マイナスのエネルギーを持った人が居ることになります。それは決して安心・安全の町とは言えないと思います。秋津小は、加害者の予備軍になる可能性が低いと思います。

### かるやかに

サブタイトルに「かるやかな融合」と書きました。「かるやか」がいいのです。義務感では長続きしません。地域活動やまちづくりは、永続的なものです。誰か一人の頑張りだけでなく、「それならちよつとできるな」と、少しずつ意識を通わせることがいいと思います。

次の大久保東小学校では、こんな腕章(紙製)をPTAの人が全員持っており、町の中をみんな腕章して歩きます。腕章だけでも、悪いことをしようとする者は、「パトロールの人がいる。あっちにもいる」「人の目が光っている」と思うようで、犯罪を起しにくい町になります。何月何日の何時からのパトロールとなるかと都合を付けにくいがある方は、仕事帰り駅を降りたら、腕章を付けるそうです。「共働きたから、PTAのことができないが、家へ帰る時だけでも一員として、

サブリーマンでは、地域の知り合いがほとんどいながら、学校を通して地域の人と知り合いになるにつれ、「いいところに住んだ」「いつ定年になっても、この地域で楽しく老後を送れそうなのがする。仲間がこれだけ多くいるから」と言っています。

④サラリーマンでは、地域の知り合いがほとんどいながら、学校を通して地域の人と知り合いになるにつれ、「いいところに住んだ」「いつ定年になっても、この地域で楽しく老後を送れそうなのがする。仲間がこれだけ多くいるから」と言っています。

⑤団塊の世代が地域に溢れてきますが、その技術や経験がただ埋もれていき、そして老後を介護してもらおう側になるとすれば、人生を全うすることにならないと思えます。「おじさん、近所だから将棋教えてもらいたいよ」と来ています。「私は子どもたちに役立っている」と生きがいを持ちながら歳を重ね、頼りにされながら生きていけるようなことが学校を基点にしてできました。

⑥六者目は先生です。先生は、得意でない教科でも、子どもに教えるために、教材研究や実技練習をします。この学校でも努力はしますが、そこそこにしていただきます。特別な技術を要するときは、地域の方たちに来てもらいます。「丸投げではなく、授業の責任者は先生」ということで、技術の部分は、〇〇名人にお願いし、空いた時間は、別の教材研究や

生徒指導などに充てます。⑦七者目は行政です。さきほどビデオで上映しました「ゴロゴロ図書室」ですが、あれは全部タダです。行政だと何百万かかると思いますが、行政は許可をし、「子どもが増えた場合、普通教室になるように」と念を押しただけです。インテリア会社勤めの人は、倉庫に眠っている絨毯やカーテンを、他の材料も「物はいいぞ」と持ってきてくれました。また作業をする方、無料設計図を書いてくれる建築士さんもありました。

### 安心・安全のまち

挨拶運動で「あいさつ通り」を作る自治体があります。ただ強制的に挨拶しろよ、と言ってもしれないと思います。でも「あーあの時のおじさんだ。将棋のおじさんだ」と関わりを持ち、心の触れ合いの合いがある人間同士なら、子どもは挨拶をします。中学校の先生は、万引きとか、タバコとかで、夜中に呼び出しがあるのですが、「この地域の子に係る呼び出しが少ない」とのことです。

今200万人の引きこもりの青年がいるそうです。家に引きこもり、たまに外に出てもひとり言を言いながら、人との関わり・コミュニケーション

シヨンが取れないことが多いそうです。

秋津小では、小さい時から多種多様な大人と接しています。怖いおじいちゃんも、優しいおばあちゃんも、「これはいけない」という人や怒鳴りつける人もいます。上級生は、小さな子がいるとき我慢をし、リーダーシップを発揮するなど、異年齢で交流する場が、秋津小のグラウンドや校舎の中にはいつもあります。

異年齢での交流を小さい時から経験することで、「あの小さい子は生意気で、俺むかついたよ。だけど小さいからしょうがないか」といつか、「むかつく・キレる」などの暴発が起こる前におさまります。そして中・高校生になっても「キレる」「暴力する」とならないようです。異年齢層や多種多様な人との体験をすることで、「ワクチン」を心に注射できると思います。

失礼ですが、引きこもっている間は、まだいいと思います。引きこもりが高じて、人に危害を加えるような人がいます。事件を起す人には、人とコミュニケーションが取れない故に、爆発となる事例があるようです。安心・安全のまちづくりで、一方的だと感じるのは、「安心・安全は被害者にならないこと」を指していると思われれます。被害者

少しはお役に立てるのかな」と言っています。「かるやかに、できる範囲でいいのです。みんなの力で小さな一歩を」

# こんにちは 分館

高社山麓に八十四世帯が暮らす果樹栽培の盛んな深沢地区の分館活動を紹介します。

三月中旬に蕎麦打ち体験を行いました。ヤマゴボウの葉をつなぎとして入れる本格的な蕎麦打ちです。田中先生にご指導いただきなんとか打てました。苦勞して打った蕎麦の味は格別でした。

九月上旬には、剣沢、どぶ沢水源地視察を行い、中学

生、区民の皆さんに参加をいただきました。先人が「代替

## 深沢分館

えの水」を得るために、命懸けで探しあてた水源地を視察するものです。奥山深き剣沢の清流をみつめ、先人の苦勞を思う時、水の有り難さを痛感しました。

十一月二十三日には敬老会を行いました。舞踊やゲームで楽しい一時を過ごしました。

一月十三日に「どんどん焼き」を行います。午後二時頃

から小学生が澄んだ大きな声で「道陸神の家うつりげ、お椀もつて戸をあけて道」と言っている。道祖神粥を全戸に配ります。豆の入ったお粥をいただく、無病息災で一年間過せると信じられています。

深沢分館長  
上原 勝



水源地視察にて

## ふるさととの歴史

深沢は、市内では数少ない近世の成立である。それ以前のこの地は、山林一色で人家などは全くなかった。押羽村(小布施町)の農民六左衛門

らは、この地を新天地と定め、開拓にあたった。幾多の困難を克服して延宝二年

(一六七四)立村にこぎつけたのであった。その跡形は今に至るのも数多い。そのいくつかについて記す。

「堰路と屋敷割」  
村人の生活を支える堰と大

道は村落内を直線状に走っている。間口と奥行のほぼ同じ屋敷地が、大道の左右に整然と並んでいた。立村当初はまさに計画的な屋敷地割だったのである。

「六左衛門の屋敷地」

## 深沢区(村)の旧跡・堂社

この屋敷地だけは規格はずれに広く、彼の住居のほか、村堂・郷蔵・引導場・墓地などがあつた。土葬をしていた頃までは、堂に「あんじよさん(尼僧)」もいたという。

その後、土地所有者が変わり、今は高札板・墓地・秋葉社だけになっているが、高札板などがあることから、区政の拠点機能を果たしていることがわかる。なお、墓地には新田大将(六左衛門)の墓がある。

「村落内の堂社」  
集落の東外れには、ふるみさん(伏見稲荷)・深沢神社がある。

り、西外れにはかつて観音堂があつた。村外れという位置から推して、これらの堂社は、村境で疫病神を防ぐ役目も負っていたものと思われる。

田中 毅

## グループ紹介



## 子育てサークル「しゃぼん玉」

「しゃぼん玉」は、市内で10年以上前に立ち上げられた子育てサークルです。先輩のお母さん方にもこのサークルを利用してこられた方がたくさんいらっしゃいます。以前は、子供を見られる範囲内で小物を作ったり、料理(おやつ作り)をしたり、内容はかなり濃かったです。



しかし

現在は以前ほど人数もおりませんし、結局「自分達で運営していく、事に重荷を感じてしまっていて、入会の時点でやめてしまったり、退会してしまったりしています。でもお母さんが昼間、家で子供と二人だけになっていき詰まらないように、子供にもお母さんにも友達ができて、子育ての悩み相談ができる場所が必要だと思ひます。

今は毎週水曜日に西部公民館を中心に子育ての情報交換会等を行なっています。活動内容としては前ほど充実しておりませんが、お母さんの息抜きの場として、また「こんな事をやりたい、という意見がありましたら、みんなで相談して行なっていきたいと思ひます。

代表 高山 美咲

# 編集委員 だより

## 『文化なかの』

### 編集委員の

#### ひとりごと

編集委員だよりの締切日  
で数日と迫ってきている。原  
稿を仕上げなければいけない。  
今回は何にしようか考えてい  
るうちに日が経ってしまった。

中野市公民館報「文化なか  
の」の編集委員の任期もあと  
数カ月、この「編集委員だよ  
り」の担当は最後となり内容  
の良いものと気合を入れてい  
たが時間がない。焦る気持ち  
の中、時間だけが過ぎてゆく。  
新聞でも見るかなとペー  
ジをめくった。ふと建設標を

見ていたら感動する記事が目  
に入った。題は「胸を打たれ  
たレジでの言葉」だった。内  
容は訪問ヘルパーをされてい  
る62歳の女性からの投稿であ  
った。その方はヘルパーをさ

れていてコンビニエンススト  
アでトイレを借りたあと買い  
物をした際のレジでのこと。  
お店の二十歳位の青年の言葉  
に胸を打たれたことを投稿さ  
れていた。その言葉は「あり  
がとうございます。今日一日  
お仕事頑張ってください」と

言われたことに胸を打たれ、  
一生忘れられない言葉になっ  
たとのこと。そしてその青年  
に対し、あなたの言葉がけに  
感謝していますと結ばれてい  
た。

何気ない言葉が人の心を動  
かし頑張る勇気を与えてくれ  
る。私にも学生の同世代の息  
子がいる。この青年のような  
気持ちを持った青年になっ  
てほしいものです。  
最後に「文化なかの」を見  
ていただいている市民の皆様  
に感謝し筆を置きます。

(M・F)



## 今月の伝言板

### 中央公民館から

#### ■やしょうまづくり講座

さまざまな色を組みあわせて模様をつくる「や  
しょうまづくり」の講座です。今年はどうな模様  
にチャレンジするかは当日のおたのしみ。おたのしみ  
メニューも乞うご期待！

日時 2月3日(日) 午前10時～午後1時30分

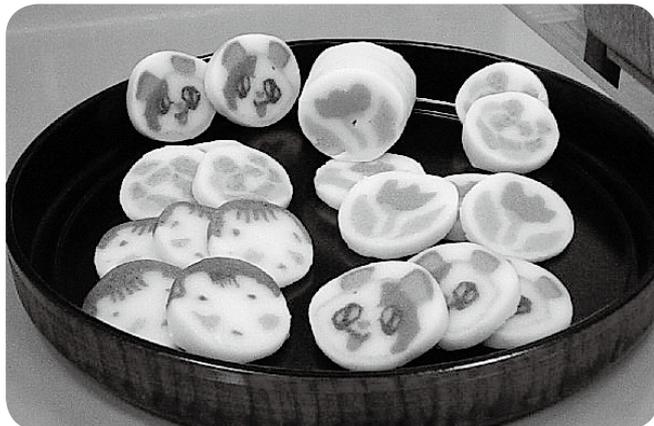
場所 中央公民館 料理実習室

講師 中野市食生活改善推進協議会  
原 楫 会長 ほか会員の皆さん

定員 親子(小学生以上)、一般の方あわせて30名

受講料 無 料(但し材料費として1人300円)

申込み 1月15日(火)から



#### ■近代文学講座

ことばには、人をはげます力もあり、傷つける  
力もあります。また、四季の移りゆくまに生み  
出された美しいことばもあります。信州は、冬の  
厳しさに立ち向かうことばや、待ちわびる春への  
思いが込められたことばが、じつに豊かな気がし  
ます。

そんな大切なことばに触れながら、日本語の美  
しさに出会ってみませんか。

日時 2月16日(土)

午後1時30分～午後3時30分

場所 中央公民館 講堂

内容 「ことばのしおり」～日本語の美しさ  
に出会いたい～

講師 近代文学研究者 堀井 正子 先生

受講料・申込み 不要

#### 1月の展示コーナー

### 色紙展

内容 信墨会会員の書道作品展示

場所 中央公民館1階 展示コーナー

お問合せ及び 中野市中央公民館  
申込み先 ☎22-2691 (有)20691

## 今月の伝言板

### 西部公民館から

#### ■やしょうまづくり教室

近年、日本古来から生活に密着した伝統の食文化は年々忘れられようとしています。西部公民館では、北信濃に昔から伝えられている食文化に出会っていただき、食の大切さを感じていただきたいと思います。子どもから大人まで、誰もが参加できます。

日時 2月2日(土) 午前10時～正午

場所 西部公民館 料理教室

講師 原 楫 先生

対象 子どもから大人まで誰もが参加できます。

定員 20人または20組

申込み 1月16日(水)から

受講料 無料(但し材料費として300円)

持ち物 三角巾、エプロン



お問合せ及び 中野市西部公民館  
申込み先 ☎23-1024 (有)26674

### 豊田公民館から

#### ■高齢者教室

「いのちの結びつきを伝えて、  
今を生きる」

祖父母の役割として孫に伝えていかななくてはいけないことについてお話いただきます。

日時 1月31日(木) 午前10時～正午

場所 豊田文化センター

内容 講演：「いのちの結びつきを伝えて、  
今を生きる」

講師：元中野市教育長 宮川 洋一 先生

合唱：「皆で歌おうあの頃の歌」

講師：神田 加奈登 先生

受講料・申込み 不要

#### ■高齢者教室「若さを保つ心とからだ」

講師のお話に笑い、ともに体を動かし、心と体の若さを保ちましょう。

日時 1月17日(木) 午前10時～11時30分

場所 豊田文化センター

講師 元中野小学校長・墨絵画家  
嘉生 稀宗 先生

受講料・申込み 不要

#### ■「信濃から夢に向かって」

プロとして活躍し夢を与え、自らもさらに大きな夢に向かって努力しているグランセローズの選手から夢を持つ大切さについてお話いただきます。サイン会も行ないます。

日時 1月19日(土) 午前10時～11時45分

場所 豊田文化センター

講師 信濃グランセローズ(松橋良幸選手、他2選手)

受講料・申込み 不要

#### ■笑顔のストレッチ

笑顔筋ストレッチなど「笑顔をつくる」具体的な方法、笑顔にまつわるとっておきのお話です。

日時 1月24日(木) 午後1時30分～3時30分

場所 豊田文化センター

講師 ヴェーネレ講師 丸山 陽子 先生

定員 30名

受講料 無料

申込み 豊田公民館へ(定員になり次第締切)

持ち物 鏡

#### ■ノルディックウォーキング

通常のウォーキングに比べ、エネルギー消費量が20%上昇するエクササイズです。

日時 1月29日(火) 午前10時～正午

場所 豊田文化センター

講師 ノルディックウォーキング  
インストラクター 服部 正秋 先生

定員 15名

持ち物 運動のできる服装、運動靴

受講料 無料

申込み 豊田公民館へ(定員になり次第締切)

お問合せ及び 中野市豊田公民館  
申込み先 ☎38-2922

◀今月号の表紙の写真▶12月23日、平野育  
成会事業の“もちつき大会”